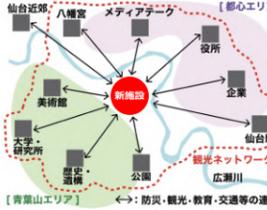


# 仙台文化をつなぐ活動のミチツジ

自然と都市の間で育まれてきた仙台文化。時に災害は起こり消えることのない記憶となります。これからも続く暮らしの中で、災害を正しく学び正しく畏れ、人々が生きる歓びを自由に表現することができる新しい音楽ホールを実現します。ともに「つくり・そだて・つなぐ」次世代への発展と継承をめざす「シブでありシンボルとなる建築」です。

## ●人と歴史と音楽と文化が出会うミチツジ(道辻)

広瀬川を挟んで青葉山エリアと都心エリアに仙台文化を担う多くの施設が点在しています。その中心に位置し、エリアアクセスの要となるこの場所に周辺施設の連携を高めるためのミチツジとしての役割を持ちながら、かつ仙台文化の新しいシンボルをつくります。

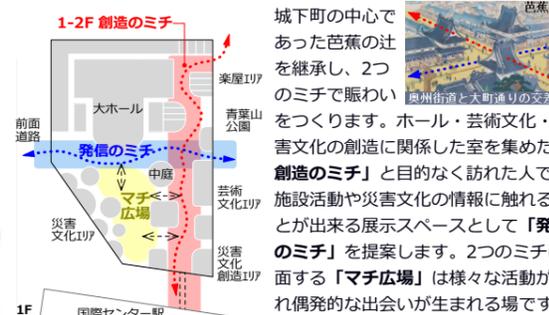


## ●あらゆる刺激的な活動を包み込む大きな屋根

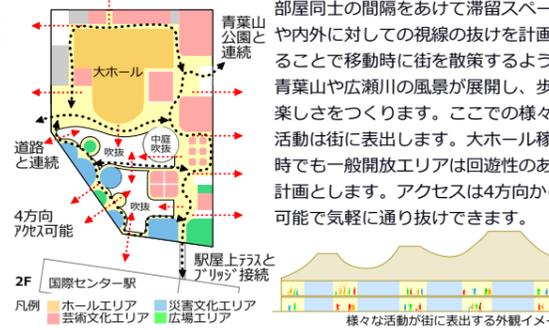


施設内外のすべての活動を支える大屋根をつくります。交流ロビーを中心に様々な活動を取り囲むように配置し、活動同士が互いに刺激しあい相乗効果が生まれる賑わいのあふれる場をつくります。

## ●『芭蕉の辻』を継承した2つのミチでつくる賑わい

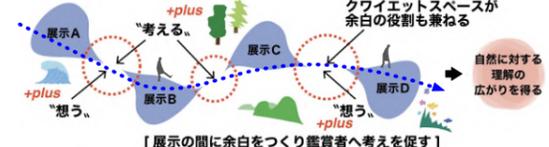


## ●街を散策するように多方向に開放性を持つ通り抜け



## ●震災を理解し自ら考える為の余白のある展示空間

自然とともにある仙台文化において震災をはじめとする災害に関する情報に対して、自ら考えて理解を深めることができる場が重要であると考えます。小さな街のように「路地・明地・ブリッジ」のような居心地の良い空間を設け、周囲の自然やマチ広場を眺めながら展示内容に思いを馳せたり、気持ちを落ち着かせたりすることができる余白をつくります。



## ●グラデーショナルなクワイエットスペース

心の状態に応じて選択できる多様なクワイエットスペースを設けます。明⇄暗、開⇄閉、大⇄小、凸凹⇄平滑といった要素で、多様な気持ちに寄り添うことのできるグラデーショナルな居場所を施設内に点在させます。



## ●全体を使い倒すことのできるフレキシブルな計画

各エリアで個別の活動を行えるだけでなく、マチ広場を使って解放劇場イベントで劇場として、また施設全体を使ってメモリアルパレードで式典広場など、異なる機能によって使用することができます。



## ●大らかな屋根を支える構造計画

RC造の音楽ホールを主要な耐震コアとして利用し、さらにプランに応じて3つの鉄骨ラチスによる耐震コアをバランスよく配置して偏心を抑えた合理的な構造計画とします。建物全体を覆う大屋根は4つのコアと外周部に配置したポスト柱を支点とした、鉄骨シングルラチスによる連続した懸垂面として架け渡すことで、デンション構造による高い断面効率により10m~30mのスパンの大空間を実現します。

